

マツラン *Gastrochilus matsuran* (Makino) Schltr.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。自然度の高い森林に依存する着生植物で、愛知県では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎ははい、長さ 1~3cm になる。葉は互生して 2 列に並び、長楕円形~線状楕円形、長さ 7~20mm、幅 3~5mm、多少湾曲し、先端は鈍頭、革質で暗紫色の斑紋があり、基部は短い鞘となって茎を被う。花期は 7~8 月、下部の葉腋から長さ 8~10mm の花序を出し、2 個の鱗片葉と 1~4 個の淡緑色で平開する花をつける。苞は 3 角形、長さ 0.5~1mm である。がく片と側花弁はほぼ同形、長楕円形、長さ 3~3.5mm、先端は鈍頭、暗紫色の斑点があり、唇弁は基部が大きくふくらみ、舷部は腎形、先端は鈍頭または切形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部 (芹沢 85939, 2010-7-3)、7 設楽東部 (夏目一平 s.n., 2009-4-28)。2 豊根 (加藤等次 s.n., 1966-6-19)、8 鳳来北東部 (加藤等次 s.n., 1963-8-3)、西：19 旭 (大原準之助 1384, 1951-7-8) で採集された標本もある。

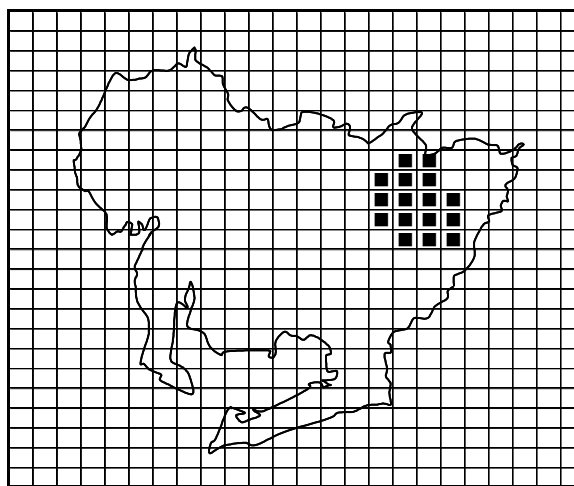
【国内の分布】

本州 (岩手県以南の太平洋側)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の、主としてモミ、ツガなどの樹幹に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

伐採された木についていたものが、偶然採集されただけである。同じ林内の他の木にも着生している可能性が高いが、現存は確認できない。

【保全上の留意点】

自然林は愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は嚴重に保全する必要がある。

【特記事項】

ベニカヤランとも呼ばれる。モミラン *G. toramanus* (Makino) Schltr. も愛知県 (鳳来町川合) にあると報告されている (大原 1984) が、写真が不鮮明でよくわからない。確実な標本資料がないため、今回のリストには掲載されていない。

【引用文献】

大原準之助. 1984. 植物新分布報告(13). 植物研究集録, 21: 62-66+表紙写真.

【関連文献】

保草本Ⅲp.67, 平草本 I p.235, 平新版 1 p.202, 環境省 p.600, SOS 旧版 p.115.